

之條可謂勿論歟。是三。次認置讓狀兼日事者、後日爲令無論已。了半全以他筆不可書之旨、幸康同雖申之、讓狀者數通也。病中難合期之間雖用他筆、爲後證、自書位置加判形之狀、敢無其難。是四。次備前國字廿鄉內中村事、兩方雖申子細、匪當知行地之間、不能眞僞糺明歟。是五。次讓漏事、爲了半素意者、可書其子細於右狀下之處、令書助吉名下之上、墨付相違之間、後日注入之由所見也。難遁入筆咎之旨、幸康雖申之、至讓漏文章者、爲狀中一筆之旨、於勘錄座幸康雖伏訖。依墨付淺深、強非入筆支證。仍不及沙汰歟。是六。次讓狀執筆仁隆阿者放圻之仁也。如此手跡不被用者爲通例之旨、幸康同雖稱之、彼隆阿者黑瀬四郎入道從父兄弟也。無放圻儀之旨師連陳之上、云位署云判形了半自筆之條見狀。右頗匪巨難歟。是七。次幸康、讓狀謀書子細、給安堵之時存知之問、即時申遣繼母觀阿許之條、見觀阿自筆返狀之由、幸康雖申之、不記年號之上、訴陳三問答之後、於對決砌始出帶之間、非無疑殆。隨如彼狀者、無讓狀謀

書所見之間、不足指南。是八。然則於幸康訴訟者、旁以爲髣髴之上者奔捐之、至遺領等者、任了半正和四年十二月廿日讓狀并外題安堵、各領掌不可有相違。次幸康、以實書號謀書咎事、至讓狀者依無子細、參上幸康、兼阿相共申安堵、乍知行所領、經歲月之後加了見、自分讓狀爲謀書之旨、猥及濫訴之條、難遁奸訴咎、仍爲懲向後、可分召幸康所領一所也矣者、仍下知如件。

元亨二年五月廿三日 沙 彌 在判

(長木工左衛門幸連の法名を了半とするは、正和四年十二月二十日の條に了甲とせるものなり。又沙彌を從來大佛維貞に當つるものは非とす。維貞は元亨二年陸奥守なるのみならず、出家せずして歿せり。)

【得田文書】 一八一

長木工左衛門入道珠阿申、能登國土田庄上村、尾張國赤池村以下、三河國富永保久延名等事、申狀如此。先度雖令申候、不遵行之由數申候。尤以不便。就中土田上村者亡

父跡候。執思候歟。無相違之條可有執沙汰候哉。恐々。
(年不詳)
 三月四日 尊 氏 在判

坊 門 殿
 (第二通は年次不詳なるを以てこゝに合叙す。木工左衛門入道珠阿とあるは幸連の子にして、前掲文書等に見えたる長七季連なるべし。幸連の死の文保元年に在ること、亦同文書に見えたり。)

六月九日。近江延曆寺、石川郡白山宮惣長吏をして本宮住侶隆政の所帯免田等を還付せしむ。

【白山比咩神社文書】 石川郡 一八二

白山本宮住侶隆政事、先度被仰下處、雖令安堵本所未返付所帯免田等、執進講衆堂僧等自由之請文條、太不可然。所詮任先度之御下知、於彼免田等者、先早可打渡隆政。至堂僧等之所存者、企參洛申入者、任道理殊可有其沙汰之由、可令下知惣長吏給之旨被仰下所也。仍執達如件。

元亨二年六月九日

權大僧部 承 雅

別當法印御房

【白山比咩神社文書】 一八三

當山住侶隆政申所帯免田等事、先度被仰下之處、雖令安堵本所未返付所帯免田等、執進講衆堂僧等自由之請文之條、太不可然。所詮任先度之御下知、於彼免田等者、先早可打渡隆政由、重貫首御下知如此。可令存知此旨給候。仍執達如件。

元亨二年七月八日

權律師行澄 在判

八月廿八日。假揭

【總持寺文書】 鳳至郡 一八四

能州諸嶽山總持禪寺者、直續曹溪之正脈、專振洞上之玄風、特依爲百城無雙之禪苑、補任曹洞出世之道場、宜相並南禪第一之上刹、着紫衣法服奉祈寶祚延長者。天氣如此。仍執達如件。

元亨二年八月廿八日

(勸修寺) 經 顯